

『スポットライト』 作：ポチ子

スポットライトに照らされる、あの子を見た。

あの光の中にいられたら、

どんなに気分がいいだろう。

私は舞台の端で、

輝くその子を羨ましそうに眺めるだけ。

スポットライトは熱いんだろうか。

あの子の汗が床に滴り落ちる。

その汗すらもキラキラ輝いて、

目を逸らしたくなった。

そっちは涼しそうでいいね、羨ましい。

彼女は言った。

きつと嫌味じゃない。

そうだね、涼しいよ。

あなたもこっちに来たら良かったのに。

私は言った。

少しの悪意を込めて。